

2026年7月30日
損害保険ジャパン株式会社

しながわ防災学校×立正大学×損保ジャパン 産官学連携による「しながわ防災学校」の開催について

損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：石川 耕治、以下「損保ジャパン」）は、品川区防災課、立正大学（学長：北村 行伸）と連携し、地域防災のモデル事業として「しながわ防災学校」を2026年7月25日に開催したことをお知らせします。

1. イベント実施の背景・目的

近年、自然災害が激甚化・頻発化するなか、災害発生時の避難所の収容能力には限界があり、「避難所へ行けば安全」という従来の常識が見直されています。

本イベントは、品川区、立正大学、損保ジャパンの産官学が連携し、住民が自らの命と生活を守るための実践的な知識とスキルを習得することを目的に開催したものです。専門家を招き、「公助の限界」と「避難所の実情」を直視し、自助・共助の重要性を学ぶプログラムを実施しました。

2. イベントの主な特徴

本イベントは、以下の3点を特徴とする実践的なプログラムです。

（1）「公助の限界」を見据えた在宅避難（ホームサバイバル）の検討

ライフラインが停止した状況を想定し、各家庭の事情に合わせて具体的な「在宅避難計画」を検討するワークショップを実施。座学にとどまらず、リアルな状況下でいかに生活を維持するかを考える。

（2）地域の潜在的リスクを可視化する「逃げ地図」作成ワークショップ

ハザードマップを基に、住民が持つ地域固有の情報（「通行止めになりやすい道」など）を地図に反映させ、安全な避難ルートを可視化。これにより、自助・共助による対応能力の向上を目指す。

（3）産官学の強力な連携による地域密着型モデル

自治体（品川区）、教育機関（立正大学）、民間企業（損保ジャパン）がそれぞれの強みをもち寄り、地域密着型の新しい共助モデルとして、ボトムアップによる地域の防災力向上を目指す取組み。

3. イベントの概要

（1）開催日時：2026年7月25日（土）10時00分～16時00分

（2）開催場所：立正大学 品川キャンパス

（3）参加者：地域の皆様、立正大学の学生さん、約50名

（4）内容と登壇者

1. 主催者挨拶

損害保険ジャパン株式会社	南東京支店長	小林 護
学校法人立正大学学園	准教授	外木 好美
品川区防災まちづくり部	防災課長	羽鳥 匡彦

2. 講義「『避難所』の脆弱性と『在宅避難』の重要性」

防災士研修センター代表 令和防災研究所エグゼクティブフェロー 玉田 太郎氏

3. ワークショップ①「ホームサバイバルトライアル」

防災士研修センター 高井 雄達氏 小倉 寛之氏

4. ワークショップ②「防災逃げ地図の作成」

損害保険ジャパン 南東京支店職員

逃げ地図防災士のメンバー

5. まとめ・今後のアクションプラン検討

4. 今後について

損保ジャパンは、今後も品川区および立正大学と密に連携し、本イベントで得られた知見や成果を地域社会に広く共有することで、地域全体の防災力向上に貢献していきます。

また、今後は損保ジャパンが推進する防災・減災プロジェクトである「HIKESHI DNA 2030 Project」に基づく取組みについても積極的に推進し、「災害に強く、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現」を目指していきます。

※「逃げ地図」は株式会社日建設計の登録商標です。

【イベントの様子】



主催者（損保ジャパン南東京支店）の挨拶と参加者の逃げ地図づくりの様子



HIKESHI DNA 2030 Project

「HIKESHI DNA 2030 Project」は、当社の原点である"火消しの精神"を今に受け継ぎ、地域と連携して「災害に強く、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現」を目指すプロジェクトです。

以上